

ペルー 柑橘類の輸出は競争の中で堅調に推移

[FreshFruitPortal](#) 2025年3月24日

ペルーの柑橘類生産者協会(ProCitrus)は最近、2024年のペルーの柑橘類輸出量が前年比で19%増加したと発表した。ペルーの柑橘類産業は前向きな傾向にあるのか? この結果に寄与した要因は何か? 柑橘類の専門家であるペルーの農業界のリーダーであり、ラカレーラ社(柑橘類生産)の代表であるエストゥアルド・マシアス・マラガ氏によると、このセクターの動きは「非常に安定」している。(以下「」は同氏の話)

「この安定性は、過去5年間の総輸出量に反映されており、この期間中にはわずか20%の成長しか見られなかった。言い換えれば、年間約5%の動きがあった。」

この安定性は、激しい競争を特徴とする世界の柑橘類市場が成熟した状態にあることが主な要因である。この市場で扱う主な品目はオレンジ、グレープフルーツ、レモン等で、量産型の商品作物であると見なされている。これら3つの主要品目が、世界の柑橘類輸出を支配している。

同氏はさらに、ペルーのオレンジ、レモン、マンダリン等の柑橘類の果樹に深刻な影響を与えているカンキツリステザウイルスがもたらす課題を指摘した。クロステロウイルス属の一種であり、主にアブラムシや感染した植物材料によって伝染するこのウイルスは、攻撃的であり、この病原体に対してより耐性のあるマンダリンと比較して、これら3品目の柑橘類の生育を妨げてきた。

これらの課題はあるものの、過去5年間のマンダリン輸出の伸びの鈍さは、このビジネスの厳しさを示すものだとマシアス氏は指摘している。

「レモン(及びライム)の輸出量は5年前の5千トンから2024年には4万4千トンに増加した。タヒチライムがエキゾチックな商品であり、その消費が輸出先の気候に依存し、また主に料理の飾りとして使用されることを考慮すると、ペルー北部地域からの出荷時期のタヒチライムの輸出の伸びは成熟したレベルに達している可能性があると考えている。ペルーの柑橘類が繁栄するためには、生産または輸出に対する動機付けが必要である。我々は約束されている農業法を心待ちにしている。」

北部のもろさ

マシアス氏は、ペルーが南半球に位置することから、柑橘類生産における主な競争相手は南アフリカやチリなど、(南半球の)高緯度に位置する国であることを強調した。

「競合国はこの地理的な優位性により、園地の病虫害が我々よりも少なく、柑橘類の着色もよい。両国は、ペルーで我々に影響を与えているウイルスの影響を緩和することに成功し、オレンジ、グレープフルーツ、レモンの重要な生産国となっている。一方、ペルーは主にマンダリンで競争している。」

イカ県の産地で最近降った雨と、2025年の気候の予測の困難性について同氏は、「エルニーニョ現象は、南部よりも北部のプランテーションに深刻な影響を与える傾向があり、特に開花(生産量)と果皮の色に影響を与える」と指摘した。

「実際、2023年には国の北部地域にある園地からの出荷量が減少し、2024年には回復して通常の生産量に戻った。弊社はペルーの南部に位置しているため、非常に安定した気候の恩恵を受けており、毎年生産目標を達成することができる。」

(翻訳は情報の提供を目的としており、特定の個人・企業や製品を推奨または批判するものではありません。)